

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500029		
法人名	社会福祉法人 善心会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 りんどう		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555番地の1		
自己評価作成日	平成23年12月5日	評価結果市町村受理日	平成24年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅での生活が可能な限り暮らし続けられる様、本人様、家族様の思いを受け止め、地域の方々にも協力を頂き、より良い介護が出来る様努めていく事を目標にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年1月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して1年ほどの事業所である。隣接する特別養護老人ホームと夜間の申し送りを一緒にするなどの連携をして、利用者喜んでもらえる介護を目指している。特に職員の質の向上に力を注ぎ、独自の勉強会、外部研修、同業者と連絡会をもち職員の体験学習などの交流をしている。運営推進会議ではメンバーから地域住民との交流について協力的な意見があり、共に事業所の理解や交流に努めている。何事にも意欲的に取り組んでいて、今後が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な全体会議で事業所方針・目的等の再確認を行い、職員間で声掛け合い実践に繋げて行けるよう努めている。	法人の運営方針を理念としているが、事業所独自の理念はない。現在、職員間で「利用者一人ひとりに喜んでもらえる介護を目指す」などを検討しているが実際には、まだ明示されていない。	早急に独自の理念を職員間で作られることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員の協力を得て、地域の小学校や子供会 ボランティアの方々と交流することで、地域との関係を途切れることなく過ごすことができる。また町内会にも入り、交流に努めている。	散歩時の挨拶から会話が多くなっている。事業所の行事に参加を積極的に呼びかけ、子どもたちの立寄りやボランティアの訪問がある。地域行事にも参加の意欲がみられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族の会へ参加し、情報提供、相談に応じている。又小学生の福祉授業の一環で施設見学、交流を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者登録状況、近況の報告、今後の取り組みを題材に理解を深めている。地域福祉サービスとして地域住民に発信して行けるかを検討している。	メンバーと積極的に意見交換をしている。区長から「事業所を知ってもらおう」との提案から、地域住民や子ども会との交流に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターを相談窓口として、困難事例の助言を頂いたりしている。	介護保険や書類上で分からないことを相談している。困難事例や地域の方に事業所を知ってもらう方法などに助言をもらい、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、理解を深め、身体的だけでなく、精神的にも安全で安心なケアに心掛けている。	新人研修で拘束や虐待について学んでいる。また、定期的に拘束委員会を行い、職員全員で拘束をしないケアについて話し合いをしている。昼間は玄関に鍵をかけず、また、掃出しの窓からも自由に入出入りできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の状態を常に把握し、特に入浴時には、チェックをし、早期発見に努め、早期解決に繋がって行けるよう対応につとめる。		

小規模多機能型居宅介護事業所 りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加し、勉強している。活用する機会は今の所ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と一緒に目を通しながら疑問や不安がないか、確認しながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	送迎時やプラン見直し時に、家族の意見、要望を引き出せるよう言葉かけを行っている。特に運営に関しての意見は受けていない。	連絡帳の活用や訪問時・送迎時などで時間を見つけ聞く努力をしている。月間行事予定を知りたいという意見があり、直ちに送付し実行している。個別の意見・要望にも丁寧に対応し利用者や家族の安心を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なリーダー会や全体会議の話し合いの場で、意見や提案を議題にあげ汲み取る様になっている。	年2回は自己評価を行い、個別で面談して意見や悩みを尋ねている。職員の意見から、リビングの冷暖房器具や配膳用のテーブルを補充し、働きやすい職場づくりをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行ない、職員の実績や勤務状況を反映出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、外の研修に参加でき、それぞれのスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設との複数事業所連携事業により、事業所間交流や合同勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安、要望を傾聴し受け止め、全職員で情報を共有し、自宅での生活が継続できるようにサービスを提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問や電話で家族の思いや要望をしっかりと聞き取り、安心してサービスを利用していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から聞き取った情報から、必要な支援を検討し、りんどうで出来る支援を提示している。初めはりんどうに慣れて頂けるよう無理のないサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常のコミュニケーションを大切にし、尊敬の念を忘れないように接し、寄り添えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	送迎時や面会時に家族との会話を大切にし、利用者・家族が共に安心して生活できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時は、なるべく町内や馴染みの場所へ行くようにしているが、知人との関係継続には至っていない。	一部の利用者には、馴染みの喫茶店に寄ったり、知人との利用日を合わたりするなどの支援をしている。しかし、一人ひとりの馴染みの関係の把握や実施までには至っていない。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、馴染みの人との関係の継続支援に努めることを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方々の話を傾聴したり、利用者同士の関係を理解したうえで席にも配慮し、孤立しないように心掛けている。		

小規模多機能型居宅介護事業所 りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設入所となった方には、相手先に情報提供を行い、今までのケア内容が継続できるよう支援している。入院のためサービス終了となった方には時々電話で経過を聞き相談援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方々との会話の中で、思いや意向等をお聞きし、希望があればケアマネにも相談し本人の希望に添えるよう努めている。	寛ぎの時間・入浴時・夜間に個別にゆっくり聞いている。行事の相談をしながら、普段では聞くことのできないことを聞くこともある。難聴の方、発語の少ない方には身振り手振りで聞いたり、筆談や表情からも察知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやケアプランを把握し、日常会話や入浴時などのプライベートな時間での会話を大切にし情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり生活のリズムを把握し、職員間での連携に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に、本人・家族の思いや要望等を聞き取りグループ会において議題を出し合い、支援の方法について意見交換しながら、介護計画を作成している。	本人・家族の要望を聞き、介護記録を基に職員で話し合い介護計画を作成して。1か月ごとに評価を行い、定期的に見直しをしている。状態変化時は医師の意見も聞き、直ちに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報が共有出来る様、グループ会等の話し合いを記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調の変化や、家族の長期出張、入院などの環境の変化に対し、最善の方法を考えながら本人、家族のニーズに対応できるよう取り組んでいる。		

小規模多機能型居宅介護事業所 りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の生活歴、地域との今までの関わりなど、しっかりと把握できていない、今後地域資源を把握し、地域との協働で支えて行くようにする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医に継続して受診してもらっている。介護計画の見直し時には、かかりつけ医の意見、要望を聞き計画に取り入れている。	従来からのかかりつけ医を継続受診している。事業所での様子を家族に伝え、受診結果は家族から報告を受けたり、直接電話で医師に聞いたりして、職員全員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者の健康状態の把握や精神的ケアに努め、何かあれば看護師の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の長期入院はありません。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた話し合いは至っておりません。	利用者に該当者がいないこともあり、事業所の方針が定まっていない。	管理者・職員で話し合い、事業所の方針を立てられることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療連携の研修をしている。異変に気付いた時は、直ちに看護師、管理者に相談し、迅速に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えられるよう訓練を重ねていく。利用者方々にも安心して利用して頂き、理解を深めていく。	独自で夜間想定訓練を実施し、会議で反省点を協議し職員間で共有している。今後、消防署や地域住民との協力体制について運営推進会議などで話し合う予定である。	運営推進会議等で話し合い、消防署や地域住民の協力を得た防災訓練の実施を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し手、聞き手上手になるよう努めている。個人情報取り扱いに関しては、全職員徹底し、安心して利用して頂けるよう努めている。	接遇研修を行い、利用者の尊厳を傷つけない対応を学んでいる。気になる言葉つかいにはその場で注意し改善している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に過ごして頂けるように、自己決定出来る環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟に対応出来るよう、業務を組み本人様より傾聴し支援を大切にしてい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類が似合うことを伝えたりと会話の中で、おしゃれに関心を持ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けで、配膳や後片付けを手伝ってもらい食事に関心を持ってもらっている。	母体法人からの配食であるが、行事食・おやつなど利用者の希望を取り入れ、楽しみとなるよう工夫している。お茶を配ったり、食器を拭いたりして利用者ができることを一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を把握し、少ない摂取の時には、声掛けや食事介助を行っています。管理栄養士がバランス等考慮した献立となっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は声掛けし、歯磨きもしくはうがいだけでもして頂けるよう促している。夕食後は必ず行ってもらっている。		

小規模多機能型居宅介護事業所 りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに、パターンが把握できたら各自に適した声掛けや誘導を行っている。	排泄自立の人が多い。排泄パターンを把握し、適時声をかけたり、必要に応じて一緒にトイレに行ったりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らないように、水分摂取をすすめ体操や運動を生活の中に取り入れている。かかりつけ医にも相談し、指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けをし、気持ちよく入浴を楽しんでいた。拒否が見られる時は、気分やタイミングを考慮し声掛けを行っている。	日曜日以外は、本人の希望があればいつでも可能である。ゆず湯などの日や、気の合う利用者同士の入浴の機会を作り楽しく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の方々の生活リズムを崩さないようにし、通いではソファやベッドでの休息し、泊りでは静かな環境の中で安眠して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の報告と処方箋の提示を求め、看護師を中心として、服薬内容の確認を行い、全職員での把握を行い支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	穏やかな日は、施設周りに散歩に出掛けたりしている。生活歴を把握し、個々にあった楽しみを提供出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は、行なえていませんが、気候の良い時は、戸外へ散歩に出掛けたり、紅葉を見に出掛けたりしています。コーヒーがお好きな方には、喫茶店への外出も支援しています。	気候に合わせて事業所周辺を散歩している。また、事業所の庭でお茶をしたり、池の鯉に餌をやったりして楽しんでいる。初詣や季節の花見などにも小人数で出掛けている。	

小規模多機能型居宅介護事業所 りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ハンドバッグの中にお金を持っている方もあり、施設内の自販機でジュースを購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されたときは、電話を掛けてもらっている。本人宛に電話がかかってくることもあり、取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を実感してもらうため、壁面に飾りつけし、居心地良く過ごしてもらえるよう努めている。TVの音量も気を配っている。	ベッドの位置を変えたり、畳みのコーナーに座椅子を置いたり、ソファを増やしたりして、昼寝や安楽に過ごせる居場所を工夫している。また、時々ボランティアの訪問や行事にあわせ舞台を作り、楽しめる環境を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士ソファでくつろいで頂けるよう努めているが、日中は一人になれる時間や空間が取れないでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して居室で泊まっていただけよう、使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂いている。	大きな旅行カバン、使い慣れた毛布、ぬいぐるみ、時計、テレビを持参している人や、タンスに衣服を整理している人もいて、居心地よく過ごせる居室となっている。居間と居室が少し離れており昼夜の環境作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を把握し、できること、わかることを全職員で周知し安全安心に過ごして頂けるよう環境整備に努めている。		